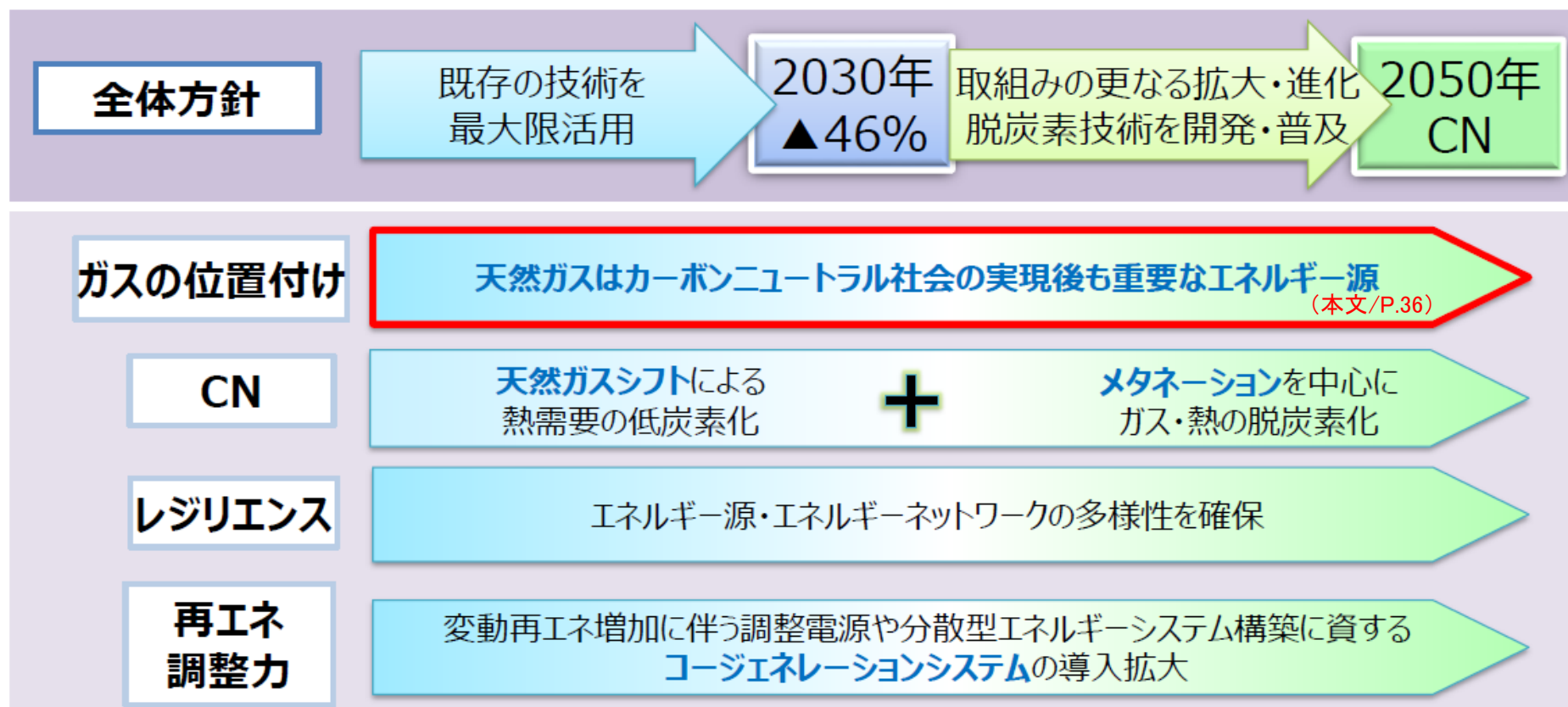


第六次エネルギー基本計画での天然ガスの位置付けと 当社グループの取り組みについて

2021年11月16日
東京ガス株式会社

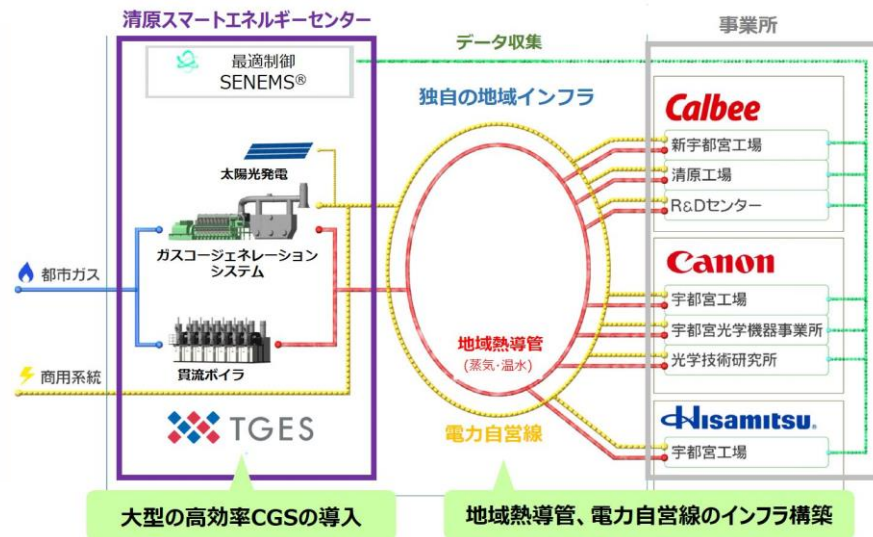
第六次エネルギー基本計画の全体方針と天然ガスの位置付け

- 「S+3E」を大前提に、2030年の新たな削減目標や2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、あらゆる可能性を排除せず、使える技術は全て使うとの発想に立つ
- 2050年カーボンニュートラルに向けた長期展望と、それを踏まえた2030年に向けた政策対応により構成

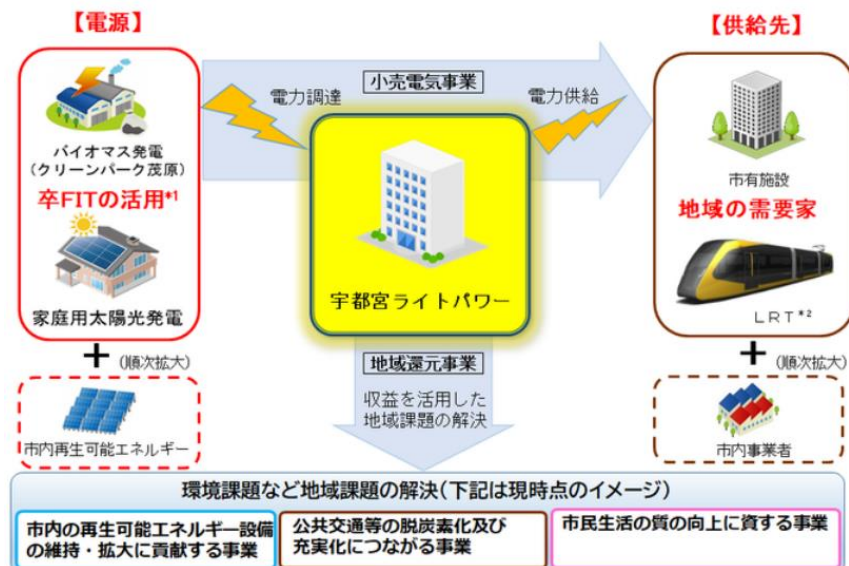


東京ガスグループの取り組み ～2030年に向けて

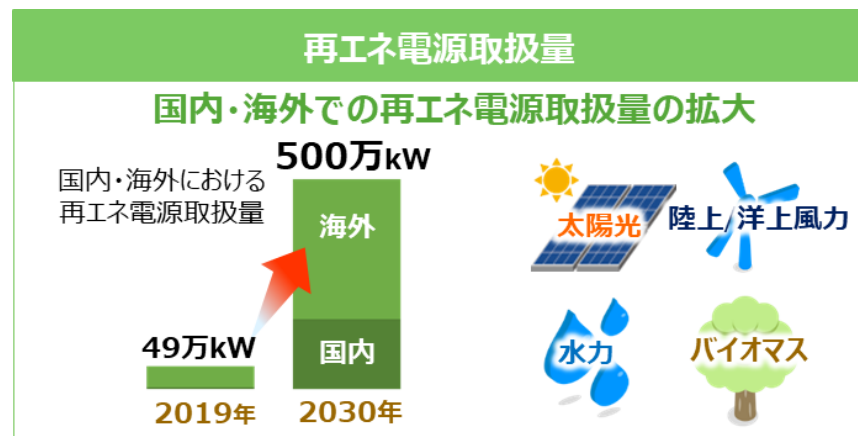
① 需要サイドでの徹底した省エネの追求・レジリエンスの強化



② 地域での価値共創 (地域新電力への参画)



③ 再エネ電源取扱量の拡大



東京ガスグループの取り組み ～2050年へのチャレンジ

① メタネーション実証試験（2022年3月から開始）



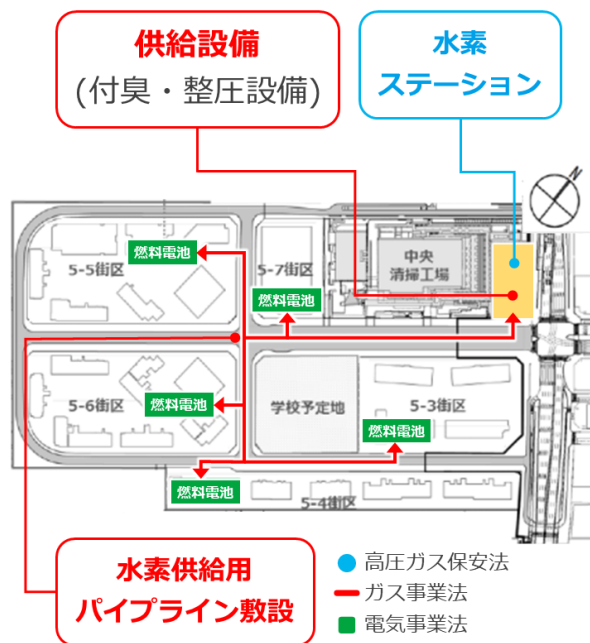
ITM社製 水電解装置



日立造船製 メタネーション装置

- 今年度は、メタネーション（水素とCO2からのメタン合成）のテスト開始が目標。
- 将来的には、自社開発のセルスタックを搭載した水電解装置や革新的メタネーション技術を適用し、**近隣行政・企業様との地域連携により、地域におけるカーボンニュートルの地産地消モデル構築**を目指す。

② 水素サプライチェーンに向けた検討（選手村地区エネルギー事業）



- オリパラ選手村地区（活用後は新築住宅街区として完成予定）に**水素パイプラインを整備**し、各街区に設置する**純水素型燃料電池への水素供給**を行う。
- **CO2フリー水素普及**を見据えた、低炭素社会の先駆けとなる取り組み。
- パイプラインによる街区への水素供給としては、**実用段階では国内初の事業。（ガス事業法を適用）**